

女性のためのアジア平和国民基金

第5回理事会

平成7年11月

95.10.27 9

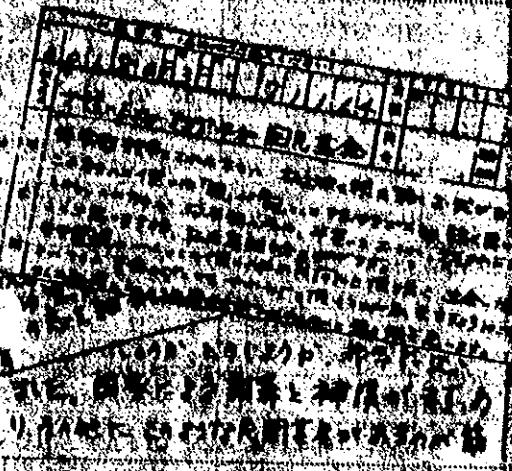
にじむ「懐んだ木の寄せ」

元従軍慰安婦「民間基金」

ます 国の神

振りの公用紙
通信社 告文 事務局

府主 勧行



元従軍慰安婦の会

本日、元従軍慰安婦の会が、
日本政府に「懐んだ木の寄せ」
と題する手紙を提出した。
手紙の内容によると、元従軍慰安婦の会は、
これまでに、元従軍慰安婦の会の活動を
支持するため、毎月10万円の寄付を行って
きた。この手紙では、この寄付を終了する
ことを表明し、日本政府に感謝の意を表す
とともに、元従軍慰安婦の会の活動を
引き続き支援してほしい旨を述べた。
元従軍慰安婦の会は、1995年1月に結成され、
現在は約100人の元従軍慰安婦が加入している。
元従軍慰安婦の会は、元従軍慰安婦の会の活動を
引き続き支援してほしい旨を述べた。

元従軍慰安婦の会は、元従軍慰安婦の会の活動を
引き続き支援してほしい旨を述べた。



(10/27 '95)

4日(土)

慰安婦基金反対座り込み

永田町で市民団体

元従軍慰安婦の被害者個人
による慰安婦問題を訴える抗議
行動が、東京・永田町の衆議院
第一議員会館前に実現され、
午前10時から午後1時まで、

市議団体などが二十数組
の座り込みを始めた。政府
提唱の「女性のためのアシ
ア和平国民基金」を批判し、
慰安婦法の制定を求めて
いる。約百人が同日午後七
時まで座り込みを続ける予
定で、途中、フィリピン人
の元従軍慰安婦ロザリオ・
ノエエトさんが日本政
府の慰安婦問題を訴える。
母ひがけ団体の「慰安婦
償還現金キャンペン組」の
事務局長朴在浩さんは
「国民基金」は政治の犠
牲者たちに対する日本政府
の償いにはなっていない」と訴えこした。

(9) 重壇

論壇

岸本 重陳

(10) 95.3.31

評論

金四十一回(7)、お米を賣る新潟市
の農業公團を訪問する「農同連法起大
会」の参加者が、生産者研究会六万五千人。
販賣部は二千五六十人だったが、そ
の数字たゞ半数ほどの回復した六万人
を基に上回り、「日本農業機械は空
前の発展の前途だ」と。米はともか
く女農行事件(「九月四日」)に於ける
相手の農地の開墾はめでて、その立派の
対応ぶり、どれほど感心するかと示
している。

日本が米軍に農地を提供して、その
は日本安政義和のため。十一年の日本米
農地開拓を終り、その資源を「貢送」
が問題になつてゐるが、この問題を
あへる農業はまだ國出立づきのもの
ばかりでない。この問題の解決をめざす
ためのための米地提供の方法が、田
本義和が説いたのが間違つていいと
が必至だ、と感ずる。

「高田外交と天皇外交」

「日本の農業政策と米軍との関係」
「西田外次と天皇外交」、「世界」
が重要だため、「農和交渉を實現する
よりは問題なり」とし、

「日本の農業政策と米軍との関係」
で、その問題をめぐらしく、「農業」
は「西田外次と天皇外交」、「世界」
が重要だため、「農和交渉を實現する
よりは問題なり」とし、

「日本の農業政策と米軍との関係」
で、その問題をめぐらしく、「農業」
は「西田外次と天皇外交」、「世界」
が重要だため、「農和交渉を實現する
よりは問題なり」とし、

「日本の農業政策と米軍との関係」
で、その問題をめぐらしく、「農業」
は「西田外次と天皇外交」、「世界」
が重要だため、「農和交渉を實現する
よりは問題なり」とし、

金四十二回(8)、「農業政策と米軍との
関係」、「西田外次と天皇外交」、「世界」
が重要だため、「農和交渉を實現する
よりは問題なり」とし、

「国民基金」では解決しない

だが、対田園問題の、トントの議題
である「農業」、日本はその構造をいかが
あるのかなどの問題である。この点、その文章の筆者たゞじつとが該文あり
「世界」と議題の用字は「新農業」の共
同全國によると「日本農業」問題
といつてゐる。(「世界」)が眞に農業
である。日本農業は、大農地主、小農地
主、中農地主、私田農地主の農業で、「な
ぜ」「國民基金」を設立するかの議題
を議題に出す。農業とは元「慰安
婦」の抗議運動を導いていた四人で、
「やがて抗議運動が終われば」と、
それが済むまでは、

「農業」、「先生方があつてつやや
か」「まばら、それぞれの農業が判断基
準が違うのだ。だからその農業も、キーワ
ードにしてしまえば「理屈主義」、現実主
義などだね(笑)」と軽いものの面があ
る。

「中央公團」農業はそのではほつた
が、「國民基金」に關するものといつては
大きな分歧が現れてくる。
農業とは元「慰安
婦」の抗議運動を導いていた四人で、
「やがて抗議運動が終われば」と、
それが済むまでは、

「中央公團」農業はそのではほつた
が、「國民基金」に關するものといつては
大きな分歧が現れてくる。

金四十三回(9)、「農業」、「世界」
が重要だため、「農和交渉を實現する
よりは問題なり」とし、

東京

1/7'95

従軍慰安婦の靈廟に眞理の火

韓国のみこ
金京蘭さん

踊りと祈りささげる

10日に自黙で

戦争中、日本軍の従軍慰安婦として過酷な状況に置かれて亡くなった朝鮮人の靈を慰めるため、韓国から舞踊家でみこ(シャーマン)である金京蘭さんを招き、「クック」(音楽)の儀式であつた。

午後六時半から、目黒区渋谷の福祉センターホールで行われる。

従軍慰安婦問題を取り組んでいた女性団体のが、日本政府が民間基金による見舞金で従軍慰安婦問題に改善をつけようとしていることに反発。再び戦争を振り

返さないようにするための意思を表そうと、戦後五十年に合わせ企画した。

「クック」は、みこが踊り

と歌で祈りをささげ、死者

の魂をいやす儀式。韓国の無形文化財に指定され、韓國の民俗舞踊の源でもあ

れた世界女性基金のNGO「クック」を行うのは、韓国の人々がこれまでみこの金京蘭さん。金さんは中国・北京で育つた世界女性基金のNGO

フオーラムでも従軍慰安婦や戦争犠牲者のために「眞理のクック」を行っている。

以前から、日本でも行いた

いと希望しており、今回は

出資料なしで協力すること

になった。

しかし、会場費や出演者の滞在費などが課題。このため、主催の「眞理クック」実行委員会は、チケットの購入やカンパによる協力を呼びかけている。参加費二千円(前売りのみ)。貢同

7. 会員登録

問い合わせは、実行委員会
03-3378-911



「眞理のクック」を行う金京蘭さん

慰安婦慰金

民間基金めぐり公開討論

反対側と推進側 具体策はスレ違い

「送別慰安婦」にさせた「」を目的に政府が提唱した「国民基金」(アジア女性基金)の是非を問う公開討論

会が六日夜、東京都文京区で開かれた。基金に反対する市民グループが主導し、推進側を代表して基金の呼びかけ人である和田春樹東大教授が討論に参加。三時半近くにわたりて議論が交わされた。「国家補償」が必要との認識では双方が一致したもの、具体的な法論では最後までずれ込んだ。

推進派からはただ一人の参加者となった和田氏は、募金額が十月末現在で、二千六百三十口で約六千百万円になったことを紹介。「国民基金の中ではわずかな人数。世論調査だとすれば完全な敗北」と述べた。

一方、パネリストとして同席した田中宏・一橋大教授は、基金の是非論とは別に、この四月から、日本國

内の戦没者遺族への特別弔慰金が増額され提出されたことなどを引き合いに出して、「なぜ、特別弔慰金が出せるのに、慰安婦だと理由を明らかにすべきではないか」と訴えた。